純度試験
① 融点　本品の融点は、245～247℃（分解）でなければならない。
② 類縁物質　本品0.10g（0.095～0.104g）を量り、アセトン20mLを加え、加温して溶かし、この溶液20μLを、薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に、イソプロパノール・酢酸ブチル・水・強アンモニア水混液(10：６：３：１）を展開溶媒として約10cm展開した後、薄層板を風乾する。これを亜硝酸ナトリウム10g（9.5～10.4g）に塩酸20mLを加えて亜硝酸ガスを発生させた容器中で10分間放置した後、これにクロモトロプ酸0.05g（0.045～0.054g）及び酢酸ナトリウム40g（39.5～40.4g）を水に溶かし、100mLとした溶液を均等に噴霧するとき、Rf値約0.5の位置に紫赤色の単一のスポットを認め、その他のスポットを認めてはならない。
乾燥減量　0.5%以下（１g，105℃，４時間）
強熱残分　0.10%以下（１g）
注意：遮光した気密容器に保存する。

チロシン　$C_9H_{11}NO_3$〔日本薬局方標準品〕

ナイカルバジン　$C_{13}H_{10}N_4O_5 \cdot C_6H_8N_2O$　本品は、ナイカルバジン製造用原体を量り、ジオキサン・アセトン・水混液（５：４：１）を用いて再結晶して調製する。
物理的・化学的性質
① 本品は、帯黄色の粉末で、臭いはない、又は僅かに特異な臭いを有する。
② 融点　約260℃（分解）
確認試験
① 本品の無水エタノール溶液（１→15,000）15mLにスルファニル酸試液（２→125）５mL及び新たに調製した亜硝酸ナトリウム溶液（１→100）５mLを加え、密栓し、65℃で10分間加温するとき、溶液は、赤色を呈する。
② 本品の無水エタノール溶液（１→15,000）15mLに水酸化カリウムのエタノール溶液（１→100）５mLを加えるとき、溶液は、黄色を呈する。
純度試験　類縁物質　本品10mg（9.5～10.4mg）を量り、ジメチルホルムアミド1.0mLを加えて溶かし、この溶液５μLを、薄層クロマトグラフ用セルロース（蛍光剤入り）を用いて調製した薄層板にスポットする。次に、クロロホルム・エーテル・メタノール(10：９：１）を展開溶媒として約10cm展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線（主波長254nm）を照射するとき、Rf値約0.3の位置に単一のスポットを認め、その他のスポットを認めてはならない。
乾燥減量　0.5%以下（１g，減圧，五酸化リン，110℃，１時間）
強熱残分　0.10%以下（１g）
注意：遮光した気密容器に保存する。

パラアミノベンゾイルグルタミン酸　$C_{11}H_{14}N_2O_3$〔日本薬局方標準品〕

パルミチン酸レチノール、薄層クロマトグラフ用　$C_{36}H_{60}O_2$〔薄層クロマトグラフ用パルミチン酸レチノール、日本薬局方標準品〕

葉酸　$C_{19}H_{19}N_7O_6$〔日本薬局方標準品〕

リボフラビン　$C_{17}H_{20}N_4O_6$〔日本薬局方標準品〕

⑵ 試薬・試液
試薬は、飼料添加物の試験に用いるものである。「容量分析用標準試薬」、「特級」、「１級」又は「無ヒ素」等と記載したものは、それぞれ日本工業規格試薬の容量分析用標準試薬、特級、１級又は無ヒ素等の規格に適合するものであり、かつ、試験法は、日本工業規格試薬の試験法に従う。試薬名が日本工業規格と相違する場合は、これを併記する。「日局」と記載したものは、日本薬局方の医薬品各条の成分規格に適合するものである。単に試験法を記載してある試薬については、飼料添加物の試験法を準用する。
試液は、飼料添加物の試験に用いるために調製した溶液である。

亜鉛（標準試薬）　Zn〔容量分析用標準試薬〕

亜鉛、無ヒ素　Zn〔無ヒ素〕　約800μmのものを用いる。

亜鉛末　Zn〔特級〕

亜硝酸ナトリウム　$NaNO_2$〔特級〕

亜硝酸ナトリウム試液　亜硝酸ナトリウム10g（9.5～10.4g）に水を加えて溶かし、100mLとする。用時調製する。

アスコルビン酸　$C_6H_8O_6$〔日局〕

アスコルビン酸ナトリウム　$C_6H_7NaO_6$〔特級〕

アセチレン　C_2H_2〔溶解性アセチレン〕98.0%以上

アセトン　CH_3COCH_3〔特級〕
ビタミンD定量に用いるアセトンは、一般試験法のビタミンD定量法に定めるところによるものとする。

アセトン、非水滴定用　アセトンに過マンガン酸カリウムを少量ずつ加え、振り混ぜ、２～３日放置して紫色が消えなくなった後、蒸留し、留液に新たに焼いた無水炭酸カリウムを加えて脱水し、分留管を付け、湿気を避けて蒸留し、56℃の留分を集める。

アセトニトリル　CH_3CN〔特級〕

アニリン　$C_6H_5NH_2$〔特級〕

アミグダリン　$C_{20}H_{27}NO_{11}$　本品は、水にやや溶けやすく、エタノールに溶けにくく、エーテルにほとんど溶けない。
pH　本品の水溶液（１→100）のpHは、4.5～6.5でなければならない。
融点　210～222℃
比旋光度　$[\alpha]_D^{20}$＝－39～－43°
乾燥減量　５%以下
強熱残分　0.1%以下

アミドール　$(NH_2)_2C_6H_3OH \cdot 2HCl$　微黄褐色～灰黄緑色の結晶性の粉末である。
溶状　本品1.0g（0.95～1.04g）に水20mLを加えて溶かすとき、溶液は、澄明である。
含量　98.0%以上

アミドール・亜硫酸水素ナトリウム試液　アミドール0.4g（0.35～0.44g）及び亜硫酸水素ナトリウム８g（7.5～8.4g）を量り、水を加えて溶かし、40mLとする。用時調製する。

４-アミノアンチピリン　$C_{11}H_{13}N_3O$〔特級〕

アミノ酸分析用ニンヒドリン　ニンヒドリン、アミノ酸分析用の項に定める。

アミノ酸分析用ニンヒドリン試液　ニンヒドリン試液、アミノ酸分析用の項に定める。

アミノピリン　$C_{13}H_{17}N_3O$　無色若しくは白色の結晶又は白色の結晶性粉末で、臭いはなく、味は僅かに苦い。
融点　107～109℃
乾燥減量　0.5%以下（１g，シリカゲル，４時間）
強熱残分　0.10%以下（１g）
遮光して保存する。

p-アミノ安息香酸　$NH_2C_6H_4COOH$〔特級〕

アミルアルコール、イソ　$(CH_3)_2CH_2CH_2CHOH$〔特級〕

アラビノース　$C_5H_{10}O_5$
比旋光度　$[\alpha]_D^{20}$＝－103～－105°
重金属　10μg/g以下
水分　0.5%以下

アリザリンエローGG　$C_{13}H_8N_3NaO_5$〔特級〕　変色範囲　pH（黄色）10.0～12.0（褐色）

アリザリンエローGG試液　アリザリンエローGG0.1g（0.05～0.14g）にエタノール100mLを加えて溶かし、必要ならば、ろ過する。

アリザリンエローGG・チモールフタレイン試液　アリザリンエローGG試液10mLにチモールフタレイン試液20mLを加え、混和する。

アリザリンスルホン酸ナトリウム　$C_{14}H_5O_2(OH)_2SO_3Na \cdot H_2O$〔特級〕